

修士課程科目(H31)		授業形態	講義	先端バ ^イ ：必修2単位 高度メ ^テ ィカル：必修2単位 グローバル医科学：必修2単位
科目名	ゲノム医学		ナンバリング コード	先端バ ^イ ：GDMFB1002 高度メ ^テ ィカル：GDMAM1002 グローバル医科学：GDMGM1002
テーマ	遺伝子操作および解析技術を学習し、ゲノム研究の医学への貢献を理解する			
開講時期	1年前期 火曜日 6限 (※博士課程の講義を受講するので日程に注意すること)			
授業場所	共通教育棟504講義室			
担当教員	奥野浩行 (連絡先：okuno@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp)			
G I O	医科学におけるゲノム研究・遺伝子研究の有用性と限界を理解する			
S B O	1) ゲノム編集技術や組換えDNA技術を説明することができる。 2) 遺伝子による生理機能調節を説明することができる 3) 遺伝子機能発現に影響する環境因子を述べることができる。 4) ゲノム変異による様々な疾患について説明することができる。 5) テーラーメイド(オーダーメイド)医療について説明できる。 6) 遺伝性疾患の診断法を述べることができる。			
授 業 内 容 (90分 × 15回)				担 当 者
1	オリエンテーション：ゲノム研究と医科学 (5/7)			奥野浩行
2	発生工学的手法を用いた遺伝子機能の解明 (5/14)			佐藤正宏
3	遺伝子異常と疾患発症の関係(5/21)			佐藤正宏
4	接着分子を介した神経分化制御機構 (5/28)			武田泰生
5	癌と代謝、上皮間葉転換(EMT) (6/4)			原口みさ子
6	薬物動態に基づく抗癌剤耐性機構の解析 (6/11)			古川龍彦
7	腫瘍悪生化因子チミジンホスホリラーゼの機能 (6/18)			古川龍彦
8	先端医療技術(遺伝子治療と再生医療)の基礎研究開発と臨床応用の現状 (6/25)			小賤健一郎
9	タンパク質相互作用とシグナル伝達について (7/2)			岸田昭世
10	小胞輸送 (7/9)			岸田昭世
11	薬理ゲノミクス (7/16)			宮田篤郎
12	ゲノム創薬 (7/23)			宮田篤郎
13	ゲノムプロジェクトからオーダーメイド医療化プロジェクトへの展開 (7/30)			武田泰生
14	大脳情動回路を制御する遺伝子(8/6)			城山優治
15	ゲノム変異と神経・精神疾患 (8/20)			奥野浩行
教科書・参考書	特に指定しない。必要な場合はそれぞれの授業で資料を配布する。			
評価基準 および方法	積極的な授業への参加…70%, レポート…30% (担当者による)			
アクティブ・ ラーニング	方法： 回数：			
時間外対応	オフィスアワー	随時対応しますが、まずはメールでの連絡が望ましい		
	メール・HP	okuno@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp		
	授業後	質問や不明な点があれば授業後またはメールで受け付ける		
その他				